

ラクダの Zoom 会議 200 回の軌跡

NPO 法人公共の交通ラクダ 岡将男

<http://www.racda-okayama.org/>、okj165@poppy.ocn.ne.jp

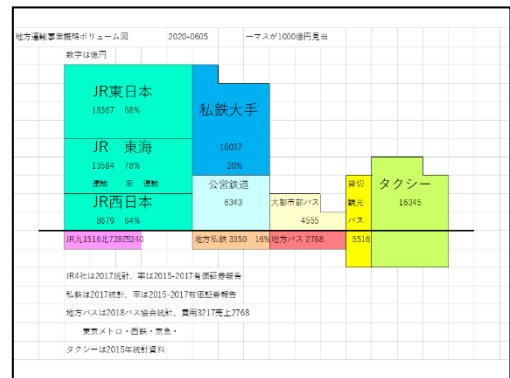
はじめに

コロナ以来 RACDA では毎週火曜に全国 Zoom 会議を開催し、全国の関係者に呼びかけて拡大開催。今年 1 月末までに 193 回開催。コロナ禍の影響分析と情報公開、ロビー活動の作戦会議。当初は 12 名程だったが、最近では 30 名弱が参加。札幌から沖縄まで、大学教官 5-6 人、市民団体 15 人、学生 3 人、研究者・コンサル・新聞記者・国会議員など多彩で自由な意見交換の場が誕生。

1. 新型コロナウイルスによる交通崩壊を防ぐための緊急アピール 2021-0417

地方の電車バスの部分について、全国的な支援体制を組む必要があると議論を開始。

★全国的交通崩壊の危機が伝わらない、事業者が危機だと言えない 5 つの理由 ①民間事業なので、信用不安が怖い ②今まで行政の支援を沢山受けてきて、言いにくい ③全業界が打撃を受けているので、自分たちだけ言えない ④運輸局や国には財政支援など、相手にしてもらえないと思っている ⑤民鉄協会、バス協会ともに地方には向いてくれないと思っている ★事業者自身が危機を訴えないと、マスクも社会も受止めない。勇気を持ち数字を示すべき。



★緊急アピールの内容、48 団体、各地で提案・会見

1. アメリカの公共交通支援 250 億 \$ の様に資金面での全面的な公的な支援を至急対応すべき。
2. 事業継続が困難となった事業者は、一時、国有化、公有化も選択肢と考えるべきである。
3. 全国交通事業者は 4/15 現在の前年対比売上を公表し、至急全国民に窮状アピールするべき。

★くらしの足グループ、JCOMM グループとゆるやかに連携して、データ収集、ロビー活動を展開。

2. 全国路面電車ネットワークホームページの新設とコロナ禍後に向けての提言

★コロナ禍・全国交通事業者影響調査 公共交通（電車バス）への影響の報道などを収集。

★コロナ禍・各地運行情報 公共交通（電車バス）の各地運行情報などを収集。

【北海道】北海道全体 運休・減便 NPO 法人ゆうらん 随時更新 事業者 URL

【東海】東海地方の公共交通_コロナウイルスの影響による運休状況など 路線図ドットコム

【岡山】岡山県内電車バス運行状況 松田和也 公共の交通ラクダ (RACDA)

【広島】広島県バス協会 新型コロナウイルス感染拡大に伴う減便・運休のお知らせ

★コロナ禍・頑張る交通事業者 松原光也 ROBA・KOALA・RACDA 大阪堺

★コロナと共存・公共交通運営マニュアル集

★交通事業者への自治体支援メニュー一覧表 (交通崩壊を防げ! 参照) RACDA 調べ

全国 729 自治体が、コロナ禍のものの公共交通支援に乗り出した、319 億円が判明 2020-1211

★2020-1115 「コロナ禍後の地域公共交通の方向性」 ver2 を記者発表

「地域公共交通支援求め提言書、市に RACDA」 11/21 山陽新聞社

「路線バス網維持へ早期の公費負担を 岡山の NPO 提案」 11/21 日本経済新聞

学割負担などを軽減しバリアフリーなど公的負担を拡大し、将来的な財源確保・制度改革を提案

★2021-0420 地域公共交通計画による情報公開等調査 ver3 新潟 佐藤輝和

会議公開比率：43.82% 議事録公開比率：20.22% 市民参加可能比率：21.35%

公共交通マップ製作予定比率：68.54% 協議会運営等委託業者公開比率：38.20%

税金投入拡大の前提として、事業者の情報公開、自治体の計画能力の充実が求められる。

3. クリーンモバイル岡山倉敷連星都市圏 3 の発行と宇都宮路面電車サミット開催

★RACDA では 1995 年・1999 年の岡山商工会議所の「人と緑の都心 1km スクエア構想」(コンパクトシティのモデル)を継承し、広報冊子として「クリーンモバイル都市岡山を目指して」を 2013 年 2015 年に刊行。路面電車環状化、駅前乗り入れ、吉備線 LRT 化、バスマップから都心まちづくり運動、全国ネットワークの紹介まで掲載。

★クリーンモバイル 3 は、コロナ禍以後、難航する岡山の交通諸課題を一挙に解決するため、毎週の Zoom 会議メンバーに執筆を依頼して、①ライトレールとまちづくり、②岡山倉敷連星都市圏の交通まちづくり提案、③RACDA の Zoom 会議と交通まちづくりの論点、④交通データ整備と制度設計、の 4 点を論じた。2023 年 8 月の宇都宮ライトレール開業を LRT 推進運動のバネにするべく、全ページカラーで 1000 部を作成 (1 は 1500 部、2 は 900 部)。併せて全国の地方都市交通再生をめざし、小樽余市リニュアルや JR のサービスレベル改善まで、議論を形にした。



★2024 年 1 月 27-28 日にはこの Zoom 会議メンバーを骨格として、「第 16 回全国路面電車サミット 2024 宇都宮」を開催。国交省の後援、国会議連と事業者の支援も受け、行政側の LRT 都市サミットに連動し、懇親会 110 人、本会議 150 人が参加。都市交通が生活交通に埋没したこの 15 年と分析し、既存の都市の鉄道網やバス網、道路網をどう生かして地域の人口を増やせるかをテーマに議論した。2000 年頃の TDM や TOD を改めて議論する場となった。

4. おわりに

20 時からの会議前半は全国バスマップサミットメンバーの交流の場として提供。現在は「バスマップハンドブック」の作成に取り組んでいる。全国でどのくらいバスマップが作られているかの調査の必要性も指摘されている。21 時からの後半は全国路面電車ネットワークの 30 年来のメンバー中心の会議だったが、20 代 30 代も増えて平均年齢は大幅に若返っており、ある種の研修の場にもなっている。Zoom の利用により、今まで年数回しか会えなかった都市交通支援全国ネットワークが活性化し、運動として新しい段階を迎えたと言える。

キーワード 協働、合意形成、LRT、バスマップ